

議事録

会議の名称	令和5年度第14回西東京市総合計画策定審議会
開催日時	令和5年5月13日（土曜日）午後2時から4時まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階庁議室
出席者	市川武志委員、伊藤一雄委員、伊藤泰彦委員、河野美晴委員、小松真弓委員、佐久間雄一委員、篠原京子委員、土井隆司委員、中島伸委員、松川紀代美委員（50音順） 事務局：柴原企画部部長、佐野企画部副参与兼企画政策課長、樽見企画部主幹、広瀬企画政策課副主幹、里企画政策課主査、八巻企画政策課主任、佐藤企画政策課主任、鎌田企画政策課主事 欠席：佐々木亮翔委員、中嶋亮太委員
議題	議題1 開会 議題2 諮問事項に対する協議検討 （1）西東京市第3次基本構想・基本計画（案）中間のまとめについて 議題3 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市第3次基本構想・基本計画（案）中間のまとめ 資料2 基本構想の構成の整理 資料3 審議会委員意見への対応方針【基本計画（各論）】
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><u>議題1 開会</u> 会長より開会の挨拶</p> <p><u>議題2 諮問事項に対する協議検討</u> 事務局から資料1、資料2、資料3に沿って説明</p> <p>○委員 基本構想の構成が整理されており、とても良い。理念を構築している目標、目標を達成するための課題、課題を解決するための施策が順番に配列されており、読み手の市民に分かりやすくなっていると思う。</p> <p>○委員 資料1の4ページに「基本理念（わたしたちの望み）」とあるが、「わたしたち」とは誰</p>	

なのかと疑問に思った。

○会長

「基本理念」、「基本目標」という言葉が分かりにくいいため、説明としてつけているのではないか。

○委員

市民に自分ごととして認識してもらうことの大切さは審議会メンバーで共有していると思うので、その意味で言葉を変えとしてもこの意図は残したい。市民意識調査やシンポジウム、ワークショップ等を通じて市民の意見を丁寧に聞き、基本理念作成に繋げたという審議会の覚悟が「わたしたちの望み」という言葉に表れている。

○会長

計画の策定プロセスには多くの人に関わってきたため、その一人ひとりを指して「わたしたち」としている。

○委員

ぱっと見た感じでは、「わたしたちの望み」とは誰のことなのかと思う。アンケート結果等は載っているが、これまでの策定プロセスがきちんと示されていないため、そのように思うのではないか。「市民の意見を汲み上げてこのように作った」という言葉があると良い。

○委員

前回の審議会で、市民参加は基本構想に役立ててきたため基本計画に入れ込むのはどうか、といった発言をした。策定プロセスを最後に入れると参考資料になってしまうが、一番初めに置いてもとっつきにくくなるように思える。基本構想と基本計画の間に置き、どちらの参考にもしたと示してはどうか。もしくは、市民意見の位置はこのままで、構想にも計画にも市民の意見が活かされているという旨の文を足すという案も考えられる。

○委員

2ページ「策定の趣旨」の「西東京市第3次総合計画の策定にあたり、市民とともに整理したこれからのまちづくりに」という文を膨らませてはどうか。また、「策定の趣旨」に「SDGs」という言葉が出てくるが、いきなり出すのではなく説明を加えてほしい。

○会長

具体的な市民参加企画は41ページに記載されている。5年後に計画を見直す際にも役

立つように、事務局と調整して市民参加の場を設けたことの説明を加える。SDGsについては、欄外に注釈を加えることを事務局と検討する。

○委員

他にも分かりづらい言葉があるため、注釈のページを設けられないか。

○事務局

設ける予定ではあるが巻末資料になるため、策定の趣旨の注釈については今後検討する。

○会長

注釈をまとめて巻末につけるのか、基本構想部分の注釈は別にするのか、工夫が必要である。

「策定の趣旨」の「市民とともに整理した」という部分については、幅広い立場の人々の声を聞くことで自分ごととして捉えられる総合計画の策定を目指していく、ということが表現できると、「わたしたちの望み」は「市民の望み」だと伝わるのではないか。

○委員

序盤の市長のメッセージの中で、その点について触れるとインパクトがあるのではないか。

○委員

これまでの計画策定において市民参加を意識してきたが、市民の声を聞くことは計画策定的手段でもあり、目的でもあった。さまざまな形のプロセスにトライしたことは、策定後の市民の主体的なアクションにつなげるきっかけでもある。計画を作って終わりではなく、その先に向けて動くためにこの計画があることが伝わるように、2ページの「市民とともに整理したこれからのまちづくりに」の文章に厚みを持たせてほしい。

○委員

これまでさまざまな声を聞いて住民主体のまちづくりのために計画を作ってきたが、完成したものを誰が見てどこで活用されるのかが分からない。子どもや若者が計画を見る機会があるのか疑問に思う。

○事務局

ボリュームを少なくして分かりやすくした子ども版冊子を作る予定である。

○委員

子ども条例は年齢別に分けて作ったリーフレットを学校で配布したが、そのようにするのか。

○事務局

小学校低学年向けと高学年向けで分けて作成することを想定して今後調整する予定である。

○委員

パブリックコメントはどのような形で実施するのか。総合計画がどのような形態や表現であれば分かりやすいかということについてもパブリックコメントで聞いてみてはどうか。

○事務局

市報臨時号に概要版を載せてパブリックコメントを実施する他、市民説明会も開催して自由に意見を聞く。

○委員

パブリックコメントを行い意見をもらうだけでなく、市の思いをメッセージとして添えると、より市民に意図が伝わり今までにないパブリックコメントになるため、チャレンジできるとおもしろいのではないか。

○事務局

市民説明会のポスターセッションでは、こちらから問いかけることも想定している。

○会長

パブリックコメントではそれぞれの専門的な観点から意見をもらえる。その他に、総合計画を市民にどう届けるか、のようにテーマを絞って意見をもらう場合は事務局が実施方法を検討する。

○委員

市民に総合計画を自分ごととして捉えてもらうことが大切であるため、パブリックコメントの趣旨説明で、市民一人ひとりが主体となって市を作っていくために市民の意見をもらうことを重視していると述べてほしい。

○委員

パブリックコメントを実施する際は、漠然と意見を募るより、意見を聞きたい箇所を明確に示すと市民も真剣に答えてくれるのではないか。

○委員

子どもはパブリックコメントに答えない。どういう人から意見を聞きたいか、今まで関わっていない人をどのように巻き込むか、という意識を持って声を聞く機会になると良い。

○会長

資料2で基本目標が6つとあるが、基本目標実現のための体制づくりを含めた「6+1」である。中間まとめの大枠以外の細かい事項についても意見や指摘はあるか。

○委員

資料1の44・45ページにある「計画を推進するために」の基本的な考え方6つと、基本構想の関係が見えにくい。それぞれが基本構想のどこに紐づくかが説明されていないと、必要性や重要性が分からない。

資料3の3ページのNo.34のeスポーツについてのコメントでは、具体的な事業を位置付けるかどうかではなく、その重要性の整理や検討をするかどうかを述べる必要があるのではないか。

○会長

資料3は審議会での意見対応についての説明資料であるので、そういった課題意識を事務局が持つ必要がある。

一つ目の意見は、計画推進のための基本的な考え方が基本目標等にどのように紐づか分かるように表現してほしいということか。

○委員

一つずつ整理して対応させるというより、取組の推進が必要となる論拠をはっきりさせることが必要である。

○会長

個別に書くのではなく、44ページの上段に書いても良いのではないか。

○事務局

今の段階では調整中としている施策の評価や、それらを受けて今後10年の間に何をす

るべきか等は整理する。

○会長

今回出た意見の他、見落とししている課題やパブリックコメントで得られた意見等を反映して全体の完成度を高めていく。

○委員

「計画を推進するために」というタイトルだと、この6つが計画推進に必要なセットのように思えるが、例えばSDGsは計画推進とともにやるべきことであり、計画推進のためにやるべきことではない。「ために」という言葉を変えてはどうか。

○会長

44ページ以降に示されているのは今後5年で対応すべき現代的な課題に思える。

○委員

前回、ジェンダー平等について意見した際、LGBTQ等は多文化ではなくジェンダーの中で意識することになったが、今回の資料では「男女平等参画社会」となっている。10年間の総合計画について、「今できないから」ではなく「こういう社会になると」という視点で考えると、この修正案で良いのかと疑問に思う。資料3を見ると文言は修正されているが、10年間の計画がこれで良いのかと感じた。

○会長

ここではマイノリティを切り捨てているのではなく、男女の性差の話について内閣府に準じた表現をしていると認識している。LGBTQについては、63ページの「ジェンダー平等についての情報提供等を進めます」という文でカバーできているのではないか。

○事務局

59ページにも「ジェンダーなどの多様化する人権問題への対応や」という文がある。

○会長

市には該当する事業がないが、目標の実現に向けた取組に含めることで一步前進している。

○委員

LGBTQに関することは難しい課題で、かけ声はあるが具体的に有効な取組は日本の中でもなかなか見当たらないように思う。西東京市として取組があるのであれば、小さい

ことでも徹底的に行うことをどこかに書くとよい。副題的に「男女平等参画社会の推進（ジェンダー平等を求めて）」としたり、63ページの取組内容の3つ目としてジェンダー平等に関する取組を明記したりするなど、方法は複数考えられる。

○委員

男女平等参画とジェンダー平等を並列するのは違和感がある。また、人権は全ての人にとってのものなので、そこでジェンダーのみを取り上げることに引っかけられる。ジェンダーという言葉盛り込めばいいというものではない。

○委員

人権尊重の箇所、LGBTQだけではなく社会的マイノリティ全般への配慮を重視することを課題や取組内容に入れてはどうか。

○会長

最近、多様性に関して「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン」という言葉を目にするようになった。文部科学省の次期教育推進計画の方針では「DE&I」と書かれている。ダイバーシティについてジェンダーのみ取り上げることに違和感があるため、人種や民族、国籍などとともに並べて59ページでマイノリティの立場を表現してはどうか。63ページでジェンダー平等を取組内容として項目立てるかは課題として検討する。

○委員

6ページの基本目標1で「協働・行財政」とあるが、ここで伝えたいのは「協働」ではなく「市民主体」ではないか。「協働」と「行財政」は言葉のレベルが違うように感じる。

○会長

基本目標のこの中では、行政内のカテゴリである。「協働」という言葉の行政的な意味づけはあるか。

○事務局

まちづくりの全体的な視点として「協働」、自治体経営を支えるための行政的な視点として「行財政」を使用しているが、分かりづらいということか。

○会長

市民だけではなくさまざまな活動団体や事業者がいるため、「市民主体」とするとまた別の問題が生じる。また、行政と市民が協働するという視点も必要ではないか。

○委員

協働は手法であるため、この表現に特に問題はないと考える。

○委員

「協働」という言葉は、「基本目標実現のための体制づくり」の中でも使われているため、じっくり来ていなかった。

○委員

7ページ説明を読むと、「行財政」は改革推進や変化への対応を意味していると考えられる。「行財政」という言葉に、まずは行政が先に改革して変化していくことがまちづくりには大事だというメッセージが込められているのなら、その旨を説明した上で残しても良いのではないかと考える。

○委員

7ページ基本目標1の説明の2段落目が「また、」から始まっているので、1段落目の内容とは離れることになっているのではないかと考える。1段落目と2段落目をつなぐ接続詞を使うことで意味がクリアになる。

○委員

45ページの圏域に関する記述に前回の委員の意見が盛り込まれているのか、現在検討中なのか聞きたい。また、圏域は全く新しいコミュニティになるのか、既存の地域ネットワークや自治会・町内会などを再構築するのか、といった事前の構想はできあがっているのか。

○事務局

前回の審議会ですべての個別具体的な意見は検討中であるが、全体的な意見は可能な限り反映して文章を作成している。圏域に関しては全く新しい部分もあるが、既存の窓口等を活用する部分もあり、その点については関係部署と話を重ねている。

○会長

前回の審議会ですべての委員から、学校に相談しづらい人もいるという重要な指摘があった。西東京市の教育相談センターはちゃんと残り、サービスの質が低下することはない。圏域の考え方は既存のサービスを補完するものであるため、今あるサービスに関しても損なわれないと46ページで表現されている。

○委員

自分が住んでいる地域では、転入者の自治会参加率はかなり低く、自治会が機能していないため、圏域単位でコミュニティを醸成して補完することが必要である。

○会長

策定中の都市計画マスタープランの中では、エリアは設定されているか。

○委員

生活圏域単位よりも、市街地特性の視点から個別の計画を複合的に見つつ丁寧に議論している。コミュニティについてはあまり議論できていないので、中学校区単位というエリアをどう考えるかというこの議題を持ち帰りたい。

○会長

エリアの整合性を取る必要性はないと考える。

○委員

エリアの説明文の中に「コーディネート機能の充実」とあるが、コミュニティ・スクール構想によって配置されているコーディネーターが既に中学校にいるため、パブリックコメントの際に混乱するのではないか。

○事務局

88・89ページでコミュニティ・スクールについての記述を整理する予定である。新たに設置するコーディネーターは、学校外の地域づくりを全体的に進める役割である。名称を含めて、新しいコーディネーターをどのように配置するか検討する。

○委員

既存の機能と重複する場合は話し合っ調整して合意するという過程があると思う。既存の機能に貢献している市民に心配を与えないよう、46ページにその旨をきちんと示す必要があるのではないか。

○会長

サービスの受け手や関係者が誤解しないよう、計画を読んできちんと理解できるようにすることが求められる。

○委員

コーディネーターがどのような役割を果たすコーディネーターか分かるように名称等

を検討する必要がある。

○委員

資料3のNo.34のe-スポーツは、障害者以外にもひきこもり等にも関係しており、所管部署は複数あると考えられるため、関係部署には全て聞くべきではないか。

○事務局

高齢者がフレイル予防としてe-スポーツを盛んに実施している他、スポーツ振興課もe-スポーツに力を入れようと考えているため、見直しを検討する。

○委員

124ページの「住みやすい住環境の整備」の現状と課題の3つ目で、空き家の流通促進や予防について述べられているが、「利活用」という重要なキーワードも入れてほしい。

○会長

空き家の利活用と流通促進の違いは所有者が変わらないままで利活用を行うということか。

○委員

地価が高い都市部は空き家を更地にすれば売却できるが、地方での流通促進は難しい。また、建物が古くて価値がなくても活動拠点や居場所づくりに利活用でき、東京都も推進している。

○事務局

現状と課題については、「西東京市空き家バンク」についての記述で利活用の内容を記載している。また、125ページの⑤に利活用についての記述がある。

○委員

資料3のNo.49とNo.50が修正され、魅力ある事業として地域活性化につながる期待を持てるようになっており、感謝している。

議題3 その他

○事務局

次回審議会はパブリックコメント後の7月上旬を予定しており、後日日程調整を行わせていただく。

○会長

第14回西東京市総合計画策定審議会を閉会する。

(閉会)